



【感染症だより】

～RSウイルスについて～

秋の気配を感じるこの頃、季節の変わり目に体調を崩す方も多いかと思えます。この季節に小児科で流行し始めるのがRSウイルス（Respiratory syncytial virus）です。今年は8月にすでに保育園などで流行り始めていますが、例年秋9月ごろから3月春ごろまで流行します。咳やくしゃみによって移る飛沫感染が主な感染経路です。潜伏期間は4-6日です。年長児や成人では風邪症状のみですが、特に悪化しやすいのが0歳児で、細気管支炎や肺炎を起こします。新生児期～3か月位の乳児が罹患すると、症状が悪化し入院となることがしばしばあります。はじめは咳や鼻汁の風邪症状だけであっても、急に悪化して高熱が続いたり、チアノーゼ（顔色がわるい）、頻呼吸（呼吸がはやい）、哺乳障害、咳込み嘔吐などひどい症状が出てくる場合があります。病院によっては、たとえ元気であっても新生児や3か月位の赤ちゃんであればRSウイルス検査が陽性に出た場合には大事を取って入院させることもあります。1-2歳児でも、気管支炎が悪化して入院することがありますので、眠れない、水分摂取出来ない、毎回咳嘔吐してしまう、ぐったりしているなどの症状がみられたら受診しましょう。

早産児や慢性肺疾患、先天性心疾患などの0-1歳児には、パリビズマブ（抗RSウイルスヒト化モノクローナル抗体）というRSウイルスに特異的なガンマグロブリン注射が保健適応となっています。筋肉注射ですのでとても痛い注射ですが、流行期間に毎月打つことによって、免疫物質を補充することが出来ます。適応期間がかなり限られていますので早産児や心肺疾患のあるお子様の注射ご希望の方は小児科医にご相談ください。

表：8月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	ヘルパンギーナ	36
2	胃腸炎	29
3	おたふくかぜ	6
4	溶連菌	5
5	RSウイルス	3
6	突発性発疹	3
7	手足口病	2
8	肺炎	2
9	水ぼうそう	1

文責： 清水マリ子

